ホンダ グローバル3極体制で臨む

汎用事業の展望

五十嵐事業本部長に訊く

本田技研工業＝東京都港区南青山2―1―1＝は、7月29日、東京の青山本社で五十嵐雅行取締役執行役員汎用パワープロダクツ事業本部長を囲んでの記者懇談会を開催した。五十嵐氏は、1963年生まれの51歳。二輪事業を中心にキャリアを積み、今年4月に汎用パワープロダクツ事業本部長に就任した。懇談会には、同事業部の横山和弘部長と同事業管理室の鶴薗圭介室長も出席。今回、ホンダの汎用事業の現状と展望、農業分野への取り組みについて話を伺った。

4月に就任した五十嵐事業本部長

【五十嵐雅行氏略歴】
▽生年月日＝1963年7月6日（51歳）▽1988年4月本田技研工業入社▽2007年4月＝ホンダモーターチャイナ（香港）社長▽2009年4月＝本社中国業務室室長▽2012年4月＝ホンダベトナムCO.,Ltd.社長▽2014年4月＝エイシャンホンダモーターCO.,Ltd.（タイ）取締役▽2015年4月＝本社執行役員就任汎用パワープロダクツ事業本部長▽同年6月＝同取締役執行役員。

――ホンダの除雪機販売の変遷について。

「入社してすぐに秋田の二輪販売店に勤務、ちょうど発売を開始したばかりの除雪機の販売を経験した。当時と比べ、除雪機は大きく進化した。この20数年間の除雪機の進化は、目を見張るものがある。今や日本の除雪機は、世界をリードしている。12月、1月に大雪が降って、顧客が店に来てもすでに在庫はありませんという状態。結果として顧客の方もそれに慣れて来て、7月～10月の展示会で予約を入れる。我々（メーカー側）としても、大分生産計画の精度が上がり、生産負荷が回避できるようになってきた。販売網については、余り大きくは変化していない。農機具店、二輪販売店経由での販売が中心となっている」

――国内での除雪機の受注状況について。

「現在のところ、受注ベースで理想的で推移している。8割という数字については、思ったよりは良いというのが正直な感想だ。その理由としては、去年は、雪の降り方が理想的で、最後にドンと降ってくれたおかげで仕入れが進んでいる。その結果、店頭在庫が多くなっている」

――今後の販売目標と今後の見通しは？

「本年度の目標数値としては、前年5％増の636万台をめざしているが、正直、厳しいと感じている。理由としては、アジア・中国のマーケットが期待したほど伸びず、それが全体としての販売数量が伸びない原因となっている。逆にヨーロッパは堅調で、アメリカ市場では、さらに好調となってきている。ヨーロッパは、ハンドヘルド製品を中心に『電化』が進んでおり、こうした流れにどう対応するかが課題となっている。アメリカ市場では、マスマーチャンダイジング、日本でいうホームセンターのような大型店舗でブランド化されバルクで大量販売される。これに資する供給体制をどう整えていくかが課題となっている。アジア・中国市場では、チャイナメイク（中国製品）との競争をどう戦うかが課題となっている。我々としては、価格真っ向勝負ではなく、ミャンマー、ラオス、カンボジア、インドシナなど、まだ入りきれていないマーケットにどう入っていくという戦略を持っている。ヨーロッパと北米のマーケットで勝ち切ることを優先課題としたい。

――グローバル生産体制について変化はないか？

「現在、生産拠点としては、重慶、ノースカロライナ、バンコクの3拠点体制で臨んでいる。大きな需要のあるマーケットだけでなく、世界全体のエンジン販売は、昨年のエンジンの実績で主力のGXエンジンが180万台、全体で420万台となっている」

――汎用エンジン全体の動向について。

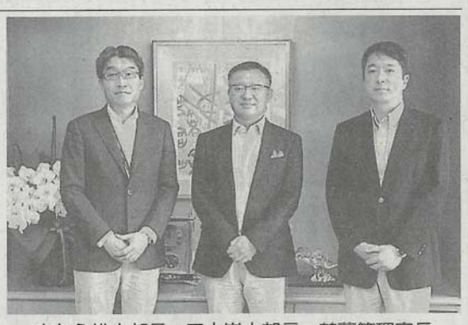
「ここ数年は、年間600万台強で推移しているが、中身のアップダウンは結構大きい。OEM向けチャイナメイク（中国製品）との競争をどう戦うかが課題となっている。我々としては、価格真っ向勝負ではなく、ミャンマー、ラオス、カンボジア、インドシナなど、まだ入りきれていないマーケットにどう入っていくという戦略を持っている。ヨーロッパと北米のマーケットで勝ち切ることを優先課題としたい。

――グローバル生産体制について変化はないか？

「現在、生産拠点としては、重慶、ノースカロライナ、バンコクの3拠点体制で臨んでいる。大きな需要のあるマーケットだけでなく、世界全体のエンジン販売は、昨年のエンジンの実績で主力のGXエンジンが180万台、全体で420万台となっている」

――今後の販売目標と今後の見通しは？

「本年度の目標数値としては、前年5％増の636万台をめざしているが、正直、厳しいと感じている。理由としては、アジア・中国のマーケットが期待したほど伸びず、それが全体としての販売数量が伸びない原因となっている。逆にヨーロッパは堅調で、アメリカ市場では、さらに好調となってきている。ヨーロッパは、ハンドヘルド製品を中心に『電化』が進んでおり、こうした流れにどう対応するかが課題となっている。アメリカ市場では、マスマーチャンダイジング、日本でいうホームセンターのような大型店舗でブランド化されバルクで大量販売される。これに資する供給体制をどう整えていくかが課題となっている。アジア・中国市場では、チャイナメイク（中国製品）との競争をどう戦うかが課題となっている。我々としては、価格真っ


左から横山部長、五十嵐本部長、鶴薗管理室長

ショーシン 排ガス規制に対応

新型キャビンSSを発表

小林社長

ショーシン＝小林雄一郎社長、長野県須坂市小河原2156＝は、平成25年排ガス規制対応エンジンを搭載した薬液タンク容量1000ℓの新型キャビンスピードスプレヤー『3S―FSC1062L』2型式を発売した。同製品は、排出ガスを1／10以下に削減し、なおかつ定格出力を従来機よりも向上した。

3S―FSC1062

ショーシンでは、作業効率を追求する大規模圃場に適した大型ハイパワー機種の『3S―FSC1062』及び『3S―FSC1061』、『3S―FSC1061L（低車高タイプ）』を販売していたが、この度、9月から施行される平成25年（第3次）排ガス規制に対応するため、後継機種の『3S―FSC1062』及び『3S―FSC1062L』を発売した。特長は、以下のとおり。

①平成25年（第3次）排ガス規制に対応＝排出ガスを1／10以下に削減するなどの、厳しい平成25年（第3次）排ガス規制をクリアした新型フル電子制御ディーゼルターボエンジンを搭載。規制をクリアして、なおかつ定格出力は従来機よりも向上（54・2→62・5馬力）、低騒音も実現。

②静音湾曲ファン＝第1風量の静音湾曲ファンを装備し、使用時風量も従来機より向上（900→936㎥／min）した。

③ハイブリットサスペンションを装備＝乗り心地と走破性を融合した特許取得の「ハイブリットサスペンション」を搭載。安全で良いキャビン内で快適に移動や作業が可能。

④電子制御4WS＝前輪と後輪を独立した油圧シリンダで電子制御し、スイッチ操作で4WSとなる。フロントタイヤの切れ角も55度と大きくしたので圃場内で思い通りの走行が可能。さらに4WS同位相（カニ走り）モードも選択可能。

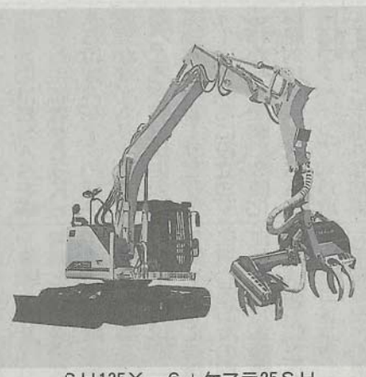
⑤先進の装備＝冷房能力が向上したエアコンや便利なチルトハンドル、見やすい大型デジタル表示の圧力計、後方確認用のカラーバックモニターなど、数々の先進装備を備えている。

【3S―FSC1062仕様】▽機体寸法（全長×全幅×全高）＝4430×1510×1420㎜▽機体質量＝1780kg▽総排気量＝2・434ℓ▽エンジン定格出力＝46・0kW（62・5ps）▽走行部型式＝4輪駆動・4輪操舵（各切替可）▽変速段数＝前進3×3、後進1×3▽走行速度＝1.6～17・9km／h▽最小旋回半径＝3.1m▽薬液タンク容量＝1000ℓ▽噴霧ポンプ型式＝並列型3連プランジャ式▽同吐出量＝155ℓ／min▽標準小売価格＝907万2000円（税込）。

林業仕様機を2機種

住友建機販売 MORIフェスで実演

住友建機の販売会社・住友建機販売＝東京都品川区上川町・大雪森のガーデンで開催する林業機械展「北のトークハーベスタSH25を装着した最新林業マシン場で威力を発揮するSH120LC―6MHマテリアル機種共に今後の北海道林業に適した特長を有しており、住友建機のハーベスタ仕様機は後方小旋回機をベースに開発。増量カウンタウェイトにより抜群の安定度を確保すると共に後端旋回半径を極力小さくしながら、各部に補強を施して山林での造材作業、木材ハンドリングなどで安全面も強化。国土交通省超低騒音型建設機械の認定も取得し、環境・省力化・生産性向上の三拍子揃ったマシンとなっている。今展示会に出品するSH135X―6と、木質バイオマス製造現場で実演する。


SH135X―6＋ケスラ25SH

SH120LC―6MH

同ハーベスタヘッドは、クラス最大の送材力を誇り、油ストローク機構でヒノキやアカマツ、トドマツといった堅い樹種の間伐作業の際でも、確実に枝払いを行うことを実現。また、ストローク式ならではの精度の高い測尺能力で、無駄のない測尺を実現。ローラ式では難しい曲がり材などでも正確な作業を行うことで、現場から支持を得ているハーベスタヘッド。玉切りなどを行う予定で、このハーベスタの作業能力の高さと、同ヘッドの能力をフルに引き出すベースマシンとの相性を確認して欲しい。

また、SH120LC―6MHマテリアルハンドリング仕様機は、視界の良さと作業範囲の広さが特徴。トレーラーボックスの中を直視しながら作業できるようエレベータ付きキャブになっているため、木質バイオマス発電の材料生産において、チップ材の効率的かつ安全な搬出、シュレッダへの木材投入などの各作業で活躍できることから、注目を呼びそうだ。

山口県産お米提供

JA全農

全国農業協同組合連合会（JA全農）＝東京都千代田区＝は、7月28～8月8日に開催の第23回世界スカウトジャンボリーに、シルバースポンサーとして地元山口県産「ひのひかり」7tを提供した。今年は世界162の国と地域から約3万人の青少年が参加するとしている。

ケルヒャー 加圧ポンプを搭載

エンジン式冷水高圧洗浄機

ケルヒャージャパン＝佐藤八郎社長、宮城県黒川郡大和町松坂平3―2＝は、業務用エンジン式冷水高圧洗浄機「HD6／12G」を8月10日に発売する。

同製品は、ケルヒャー仕様のオリジナルエンジンや、クランクシャフトタイプを採用した加圧ポンプを搭載し高い耐久性を実現。電源のいらないエンジン式で、屋外向けの業務用ニーズに応える性能を供えている。

【主な特長】①ケルヒャーオリジナルエンジン＝ケルヒャー仕様のエンジンを採用。耐久性が高く不安定な作動が無いため、安定して高圧水を吐出可能で、カバー等で覆われてないのでメンテナンスも容易に行うことができる。

②耐久性の高いケルヒャークランクシャフトポンプ＝エンジン式では上位機種にのみ搭載していたケルヒャークラフトシャフトポンプをエントリー機種にも採用。従来のモデルに比べ、摩擦が少なく経年劣化しにくいため高い水圧を持続することができる。

③大型給水フィルター＝給水フィルターが大きくなり目詰まりしにくく、異物混入の故障リスクも低減。工具なしで取り外しが出来、清掃も簡単。

④移動性の向上＝クッション性を持たせた大型タイヤで、凸凹のある場所も移動しやすく、段差も楽に乗り越えられる。アクセサリーやノズルの収納スペースを設け、移動・保管時の紛失も防ぐ。

「HD　6／12G」使用風景

「家族のまさお」・CMX2506

筑水キャニコム 新型四駆乗用草刈機

レンタル・リース受注開始

包行社長

筑水キャニコム（包行良光社長）はこのほど、大量な粉塵に対応するサイクロンエアクリーナ搭載の25psハイパワーエンジン、チャージポンプ式HST、強靭な鋼板製ボディと、プロフェッショナルな草刈作業向けに、小型特殊型式認定（申請中）の乗用草刈機四輪駆動「家族（うち）のまさお」を開発、レンタル・リース向仕様の予約受注を8月1日から開始。

筑水キャニコム＝福岡県うきは市吉井町福益90―1＝は、平坦地な果樹農家向けに「乗用草刈機まさお」が開発されて、20数年が経過。その間、乗用草刈機が普及するにつれ、平坦地な場所から斜面へ、そして荒地・高草雑草地帯と草刈作業の現場も、より過酷なところへと広範囲になってきた。そこで、遅さを増した、頼りになる息子（後継車）という想いを込めて命名した『家族（うち）のまさお・CMX2506』を開発、発売を開始した。

主な特長は①草刈作業で、エンジントラブルを誘発する粉塵をサイクロンエアクリーナ搭載で、フィルターへの着装を軽減。ホコリの多い乾燥地や枯れ草の雑草地での草刈作業で威力を発揮②電動刈刃昇降（ラクポン）採用。ボタンひとつで刈高さ0～170㎜の任意の高さにセット。楽に刈刃の上下操作ができる③作業中の走行振動や突き上げなど、刈高さが設定値から外れた時、自動感知し、設定値に自動的に戻すフィードバック制御機能を装備。刈高さを一定に保持する④高い草や密集した草を、より効率的に刈取り部へ取り込むため、乗用草刈機では一般的であった流線型のフロント部のデザインを凹型（カマキリフロント）にすることにより、高い草でも、ひと押しで取り込める⑤チャージポンプHSTを標準装備。作業時間耐久性がアップ、メンテナンス費用も低減⑥小型特殊型式認定車両で安心走行⑦4灯式LEDヘッドライト＋LEDワークランプ採用で広範囲に照明。視界良好で安全に作業従事できる。

《発売》レンタル・リース向仕様＝8月1日予約受注開始。農家・個人向仕様は12月1日発売開始

【主な仕様】機体寸法＝全長1820×全幅1040×全高1020各㎜▽刈取部＝最大刈幅975㎜・刈高0～170㎜▽最大出力＝25ps▽最高速度＝14km／h。

水田の均平作業等に

エース・システム 注目の自動水平装置

農地の規模拡大が進む中で、エース・システム＝菅原健蔵社長、北海道札幌市白石区米里5条2―5―28＝の自動水平装置「ALS―MK3」が、注目を集めている。同装置は、コントロールユニットやスロープセンサー（傾きセンサー）、プライオリティー付電磁比例制御弁などから成り、スロープセンサーでトラクタの傾きを感知。コントロールユニットで油圧バルブ・油圧レベリングシリンダーなどの油圧回路を制御して、作業機を自動的に水平位置及び指定した角度へ修正することを目的としたシステム。水田の均平作業など多くの用途で活用されている。

取り付け例を動画で公開している

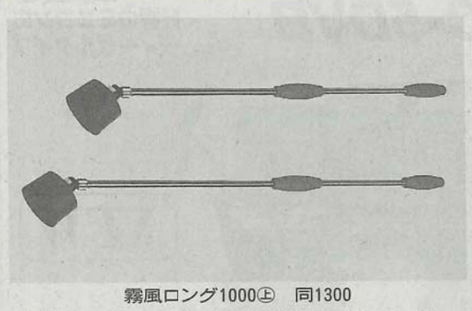
3パターンの自動制御を用意。ひとつ目は、自動水平コントロール。トラクタが左右に傾いても作業機を水平になるよう自動的にコントロールする。

その他、①任意角度コントロール（トラクタが左右に傾いても作業機は任意の角度になるよう自動的にコントロール）②平行復帰コントロール（作業機を上昇させることで、自動的にトラクタと平行になるようにコントロール）が選択可能だ。また、自動制御に関係なく、手動でも作業機の角度を設定できるので、自分好みの設定で使用できる。

短納期という点もセールスポイント。国内外の主要なトラクタに装着可能で、同社HPで動画を公開している（http://www.ace-s.co.jp）。

噴霧用鉄砲ノズル

永田製作所が2タイプ販売


霧風ロング1000㊤　同1300

永田製作所＝田中寿和社長、大阪市淀川区千舟1―5―41＝は、空気の吸い込み量がアップし、霧を大量に遠くまで飛ばす噴霧用鉄砲ノズル「霧風ロング」2タイプの発売を開始した。

【主な特長】①噴霧状態は、直噴・充円錐（円錐状全体）・空円錐（円錐状に周りのみ）で調節できる②手元握りの噴霧切り替えがエンドレスに回転するため、作業効率がアップ③空気の吸い込み量が多く（ビッグフード効果）、大量の霧を遠くまで飛ばせる④ステンレス製で錆に強い⑤軽量で、女性や高齢者にも扱いやすい。

主な用途は、果樹全般・平面野菜・立木野菜・立木・園芸用などに幅広く使用できる。

【主な仕様】霧風ロング1000＝1万2600円。同1300＝1万3100円。

他にも、ビッグフード効果シリーズとして、業界初の噴板フルコーン「霧密ちゃん」。さらにピストルタイプで、つまみ調節だけで直噴から充円錐まで自由に調節ができる「霧長くん」もある。

税別販売価格は、霧風ロング1000＝1万2600円。同1300＝1万3100円。

【主な仕様】霧密ちゃん＝1000㎜▽全長＝720g。2㎜▽最高使用圧力3MPa。

果樹・平面野菜など多用途